

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長氏名	林 真由美	生徒指導主事氏名	外輪 親憲
<b>取組事例名</b>		『見つけた みんなのいいところ ほめりんご』（第 1 学年）			
<b>取組のねらい『キーワード 相互理解』</b>					
友だちの良いところを見付けさせ、意識させることで進んでよいことや友達の為になることをする児童を育てる。					
<b>取組の具体的内容『キーワード 視覚化』</b>					
この取組では、まず帰りの会で日直がその日に見つけた友達の良かったところをみんなに伝える。帰りの会の後に、日直が発表したことを教師がりんごの形をしたメモ用紙に書き、教室に掲示している木の形をした模造紙に 1 枚ずつ貼る。 1 年を通して、りんごの木が「よいことを書いたりんご」でいっぱいになるように頑張ろうと声かけをしてきた。					
<b>取組の課題・創意工夫『キーワード 模範』</b>					
この取組の課題としては、同じ子供の名前が何度も出てくることである。どの子供も自分からよいと思うことを進んで行えるようにしていきたい。また、良い行為を見ていても、どのように表現すればよいか分からない子供もいる。日ごろから教師が「〇〇くんの今の行動は良かったね。」と良い行為を価値づけしたり、事例を挙げたりすることが大切である。					
<b>取組の成果（効果）『キーワード 認め合う』</b>					
この取組を行うことで教師は、どんな行為が友達や他人の為になるかを子供たちに身近な例を挙げながら話をすることができた。それは、子供たちも日頃目にする姿なので理解しやすい様子であった。 また、子供たちからも「先生、〇〇さんが本の整理をしていたよ。」などと友達の姿を意識し、認めている様子が見られた。その子供は友だちの良いところから学ぶことができていた。 また、あまり目立たない子供のよさをみんなに伝えることで、本人の自信にもつながっている様子が見られた。 りんごメモが沢山貼られた掲示物を見ることで、何がみんなのためになることなのかを理解し、自らが進んでよい行為ができるようになる。さらには個人及び学級がどのように成長したかを振り返ることができる。 児童が発表したりんごメモ					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A ちゃんが、おちていたぞうきをかけなおしてくれました。ありがとう。</li> <li>・ B さんと C さんがトイレのスリッパをそろえてほめられました。</li> <li>・ そうじでピカピカにしようの 2 ばんをとりました。</li> <li>・ D ちゃん、きゅうしょくのかたづけをてつだってくれてありがとう。</li> <li>・ おんがくにいくときにきちんとじゅんぴができました。</li> <li>・ たしざんのけいさんカード、ぜんいんごうかくしました。</li> <li>・ ようちえんとほいくえんのせんせいがしせいがいいとほめてくれました。</li> <li>・ きゅうしょくをみんなでのこさずたべました。ごちそうさま。</li> </ul>					



**今後の展開『キーワード 多様化』**

事例がパターン化しているのでどんなことが他人や友達の為になる行為なのか教師から色々な良い事例を発信することが大切である。また、なぜそのことが良いのかも話していきたい。そして、子供たちが今までと違った視点、あるいは新しい事例を発見した際には、さらに評価をしていきたい。

**他校へのアドバイス『キーワード 継続』**

どのように教室に掲示するか、教師がどのように日々の生活の中で声掛けをし取り上げるかによって子供たちが取り組む意欲と態度が違っていると感じる。そのため、継続的に行わせるためには、教師自らが子供たちの模範となるようなことを行い、認め合っていくことが大切だと考える。